

庄原の里山に共生学ぶ

明治大農学部生 草刈り・間伐材で木工



清水さん（右端）の指導で遊具作りに
励む学生たち

じっくり里山暮らし 原地区を訪れ、農林業を体験しようと、明治大農学部学生6人が、庄原市川北町黒田でいた明治大の早田保

義教授が、ウッドクラフト工房「のんき工房」を主宰する清水宮雄さん（70）と地域住民に呼びかけて初めて実現。

十八日から六日間、農作業などに汗を流しながら、地域住民との交流を深めた。

「自分で考え、汗をかき、自然とともに暮らす」をテーマに、慣れない作業に戸惑いながら水田のあぜ草刈り、豆腐づくり、木工などに取り組んだ。

工房に隣接する空き

地では、清水さんの指導で地域の子どもたちのため、遊具作りにも挑戦。学生が近くの山林から間伐材を切り出し、高さ約三層の木登り遊具やテールといたすのセットなどを作った。同大三年の新宮良治さん（20）は「地域の人の温かみ、豊かな自然な貴重な体験になった」と喜んでいった。

（戸田剛就）